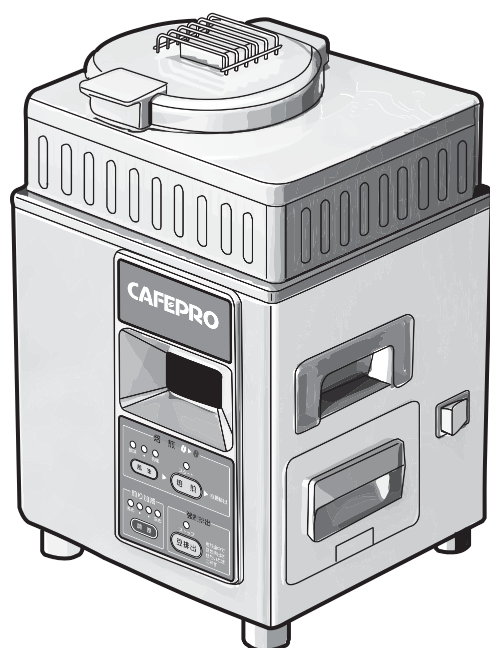
Dainichi Plus

コーヒー豆焙煎機

カフェプロ101



取扱説明書

■ 目　次 ■

MR-101

保証書別添付

この製品は日本国内専用ですので、日本国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、ご使用になる方がいつでも取り出せる場所に、大切に保管してください。

安全のために必ずお守りください

この取扱説明書にある項目は、危険の程度によって、次の２段階に区分しています。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

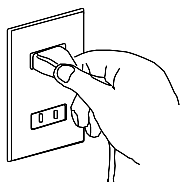
本文中のマークは、次の意味を表しています。

	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。
	このマークは、「注意」を促す内容を表しています。

警告(WARNING)

定格15Ａ以上のコンセントを単独で使用する

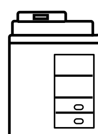
他の機器との併用はしないでください。
ブレーカーが落ちたり、火災の原因になります。

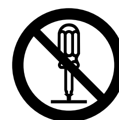




修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理をしない

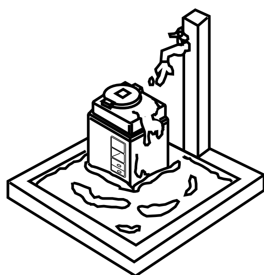
火災・感電・やけどのおそれがあります。
お手入れの際は、７ページに従い行なってください。

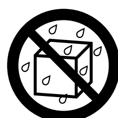




水につけたり、水をかけたりしない

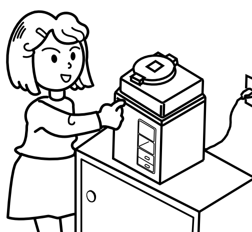
ショート・漏電のおそれがあります。

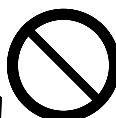




子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない

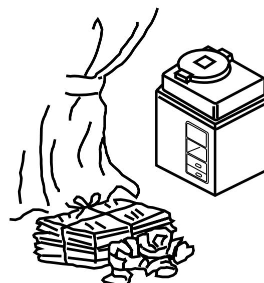
やけど・感電・けがをするおそれがあります。

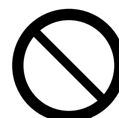




カーテンなど可燃物の近くでは使用しない

火災の原因になります。

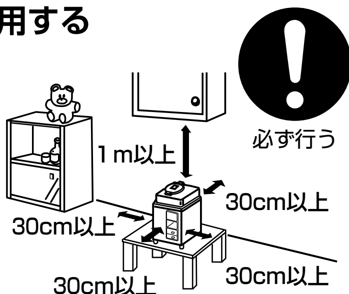




注意(CAUTION)

本体上側１m、周囲は30cm以上開け、換気のよい場所で使用する

周囲の壁や家具などが変色するおそれがあります。また、火災の原因になります。



煙感知器の近くに設置しない

焙煎のときの煙で、煙感知器が作動することがありますので、換気扇を回すか、窓を開けて換気をよくしてください。



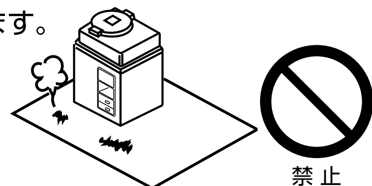
焙煎中や焙煎終了直後は本体上部に顔を近づけたり手を触れない

お子様には特に触れさせないよう注意してください。
やけどのおそれがあります。



不安定な場所や熱に弱い敷物の上では使用しない

火災の原因になります。



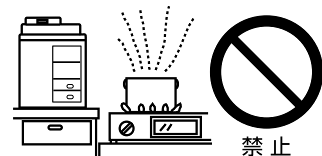
生豆投入口に手を入れない

やけど・けがの原因になります。



ガスコンロなどの炎や熱気のあたる場所に置かない

火災の原因になります。



本体上部に物をのせない

火災の原因になります。



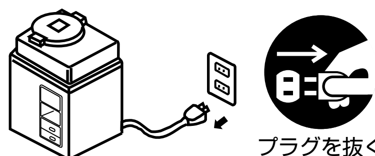
豆ケース・アンダーケースを取り扱うときは取っ手以外をさわらない

けがをするおそれがあります。



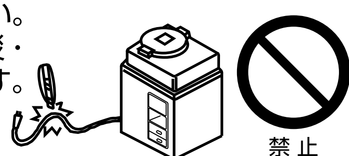
長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く

けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電、火災の原因になります。



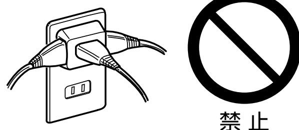
電源コードを傷めない

コードを傷つけたり・破損したり・加工したり・無理に曲げたり・引っ張ったり・ねじったりしないでください。また、重い物をのせたり、挟み込んだりしないでください。
コードが破損し、火災・感電の原因になります。



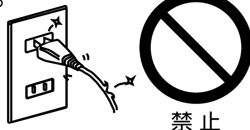
交流100V以外での使用やタコ足配線をしない

タコ足配線などで、定格を超えると発熱による火災の原因になります。



コードや電源プラグが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

感電・ショート・発火する原因になります。



電源プラグを抜くときは、コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

感電やショートして発火する原因になります。



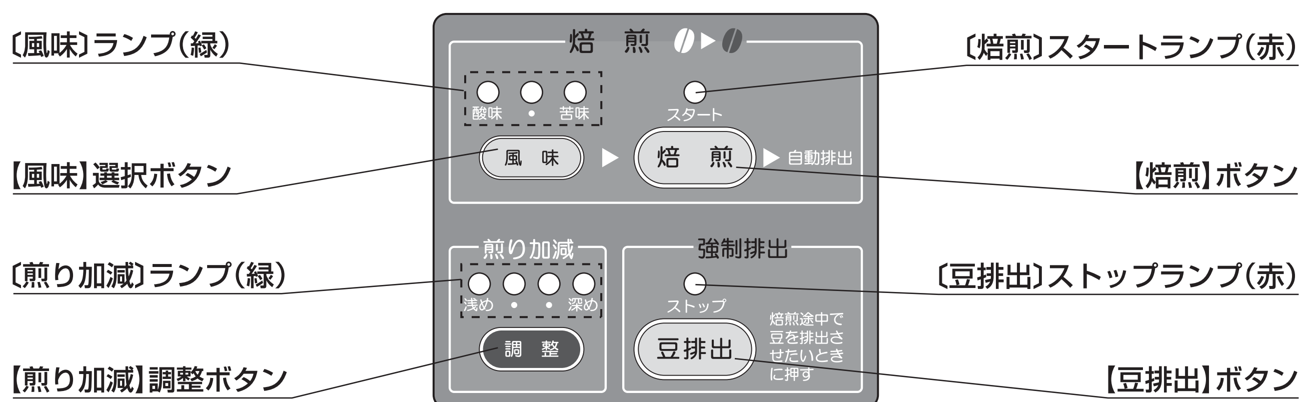
各部のなまえ

◇◇機器本体◇◇

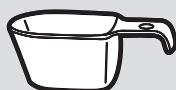
本体ふた
脱臭触媒
焙煎釜
生豆投入口
チャフ取りケース
電源スイッチ
操作パネル
豆ケース
電源コード
豆ケース取っ手
電源プラグ
アンダーケース
アンダーケース取っ手
CAFEPRO
脱臭触媒
排気口
空気取入口(底面)

運転中高温になる部分(ご注意ください)

◇◇操作パネル◇◇



付属品



●計量カップ　　1個

計量カップは、豆ケースの中に入っています。

使用前の準備

1 水平な場所に設置する

お守りください

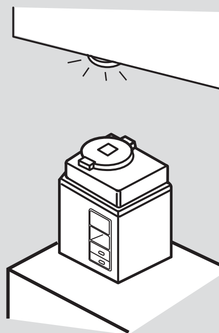
次の場所には設置しない

○カーテンなどの可燃物の近く



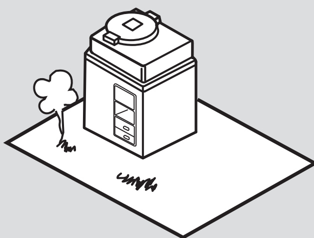


○煙感知器の近く



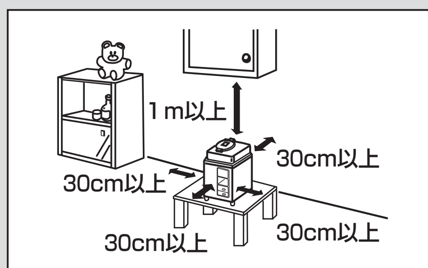


○不安定な場所や熱に弱い敷物の上





○機器が囲まれる場所、また底面の空気取入口がふさがれる場所
上側１m、周囲30cm以上開ける





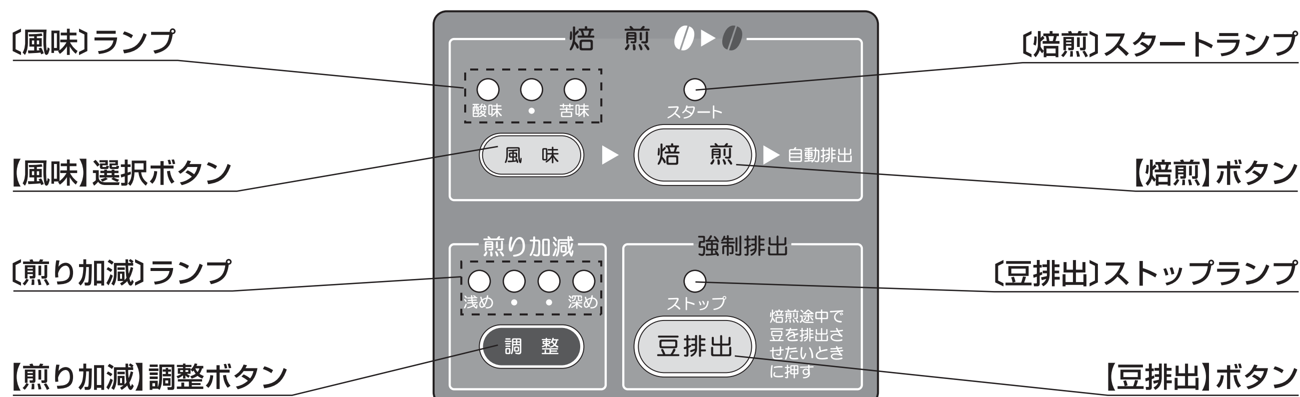
2 豆ケースから計量カップを取り出す

3 電源プラグをコンセント（100Ｖ）に確実に差し込む

お守りください

○家庭用電源以外では使用しないでください。
予想しない事故の原因になります。
○200Ｖ電源には絶対に差し込まないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
○コンセントは単独で使用し、他の機器との併用はしないでください。
ブレーカーが落ちたり、火災の原因になります。

使用方法



◇◇焙煎運転のしかた◇◇

1 電源スイッチを入れる

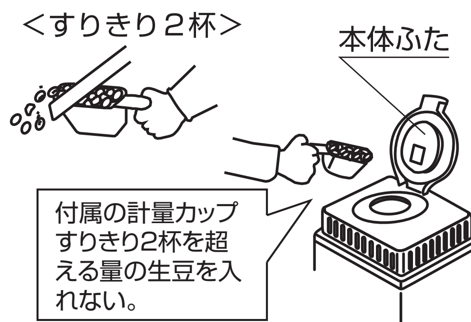
電源スイッチは本体正面に向かって右側にあります。

2 生豆を入れる

①本体ふたを開け、豆が入っていないことを確認する。

②生豆を付属の計量カップにすりきり２杯入れる（120ｇ）。

２杯を超える量の生豆は絶対に入れないでください。
故障の原因になります。



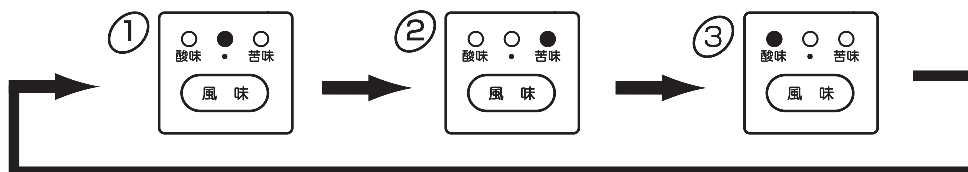
3 風味を選択し、煎り加減を調整する

お好みにより風味を選択し、煎り加減を調整してください。

風味選択のしかた

【風味】選択ボタンで、「酸味・標準・苦味」を選択する。
　酸味・・・コーヒーの酸味がつよくなる
　苦味・・・コーヒーの苦味がつよくなる

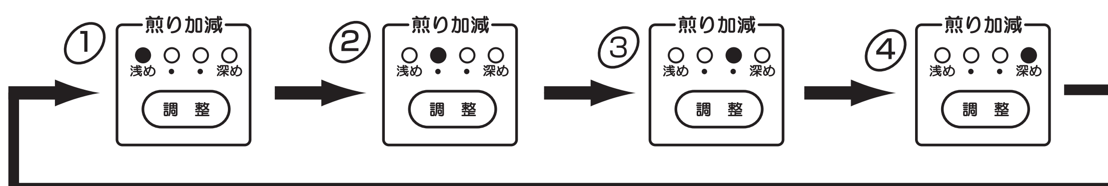
〔風味〕ランプ（緑）は、【風味】選択ボタンを押すたびに、①～③の順で切り換わります。



煎り加減調整のしかた

【煎り加減】調整ボタンで、「浅め・やや浅め・やや深め・深め」を調整する。

〔煎り加減〕ランプ（緑）は、【煎り加減】調整ボタンを押すたびに、①～④の順で切り換わります。



4 【焙煎】ボタンを押す ⇨〔焙煎〕スタートランプ(赤)点灯

焙煎を開始します。
焙煎運転中は、本体ふたを開けないでください。
パチパチという音や煙がでることがありますが、異常ではありません。

5 約23分間で焙煎が終了

焙煎開始から約15分後に、豆ケースに焙煎豆が落ちます。⇨〔焙煎〕スタートランプ(赤)が消灯
〔豆排出〕ストップランプ(赤)が点灯
その後、約8分間冷却が行われ、焙煎が終了します。⇨〔豆排出〕ストップランプ(赤)が消灯
〔豆排出〕ストップランプ(赤)が消灯するまで、豆ケースから焙煎豆を取り出さないでください。

6 豆ケースから焙煎豆を取り出す

豆ケースにチャフが付いているときは、チャフを捨ててください。

7 チャフ取りケースとアンダーケース内のチャフを捨てる

アンダーケースを取り扱うときは、取っ手を持って行なってください。

8 電源スイッチを切る

連続して焙煎したいとき

○〔豆排出〕ストップランプ(赤)点灯中は次の焙煎はスタートできません。
〔豆排出〕ストップランプ(赤)が消灯してから生豆を入れてください。また、生豆を入れたあと、ただちに焙煎を行なってください。
時間をおくと、焙煎釜の余熱により、調整した「煎り加減」と異なることがあります。
○焙煎のたびに、豆ケースから焙煎豆を取り出してください。

焙煎の途中で豆を排出したいとき

【豆排出】ボタンを押し、豆を排出してください。

お守りください

○ 1回の焙煎で計量カップすりきり2杯を超える量の生豆は絶対に入れないでください。
○焙煎途中で生豆を追加しないでください。また、焙煎途中は電源スイッチを切らないでください。故障の原因になります。
○焙煎豆は入れないでください。正常な焙煎が行われません。
○焙煎終了後、焙煎した豆の品種・大きさによっては焙煎釜から完全に排出されず、釜中に数十粒程度残るときがあります。このときは焙煎釜が十分に冷えてから本体ふたを開け、生豆投入口より掃除機などで豆を吸い取ってください。
残ったままにしておくと、次回焙煎時に煎りムラの原因になります。

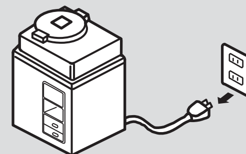
手入れのしかた

定期的に次の手入れを行なってください

お守りください

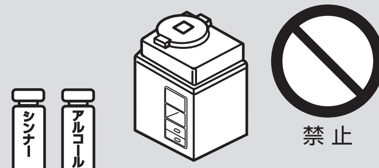
手入れを行うときは、次のことを必ず守ってください。

○必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷えてから行なってください。
やけどのおそれがあります。



○手入れを行うときは、手袋をして行なってください。
やけど・感電・けがをするおそれがあります。

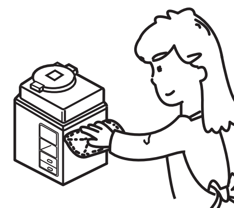
○本体の汚れをふき取るときは、シンナー・アルコール類は使用しないでください。
色が変わったり、表面に傷が付いたり割れやすくなります。
汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤をしみ込ませた布でふいてください。



豆ケースに豆が入っていないことを確認してから、手入れを行なってください。

◇◇本体の手入れ◇◇

○ご使用のたびに、本体をよく絞った布でふいてください。
○直接、水をかけないでください。



◇◇チャフ取りケースの手入れ◇◇

○チャフ取りケースが白く汚れてきたら、水洗いしてください。

◇◇豆ケース・アンダーケースの手入れ◇◇

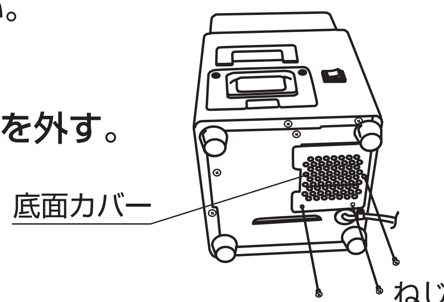
○豆ケース・アンダーケースは、ケース内にチャフがこびり付いてきたら、中性洗剤で洗ってください。
○豆ケース・アンダーケースを手入れするときは、取っ手を持って行なってください。

◇◇冷却ファンの手入れ◇◇

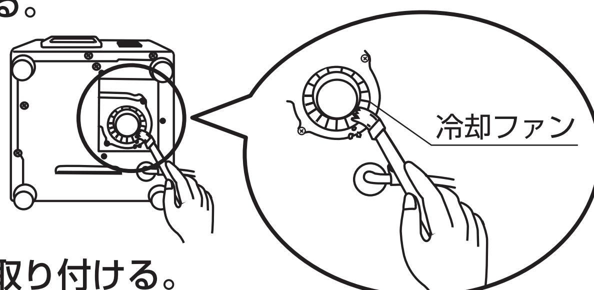
焙煎豆の冷却が終わっても、豆ケースから煙が立ち上がるときや焙煎豆の冷えが悪くなったと感じたときは、冷却ファンの手入れを行なってください。

1 本体正面に向かって、本体を左側に倒す。

2 底面カバー取り付けねじ３本を外し、底面カバーを外す。



3 冷却ファンを小さなハケなどで掃除する。



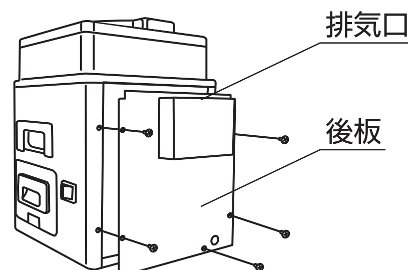
4 底面カバーを外したときと逆の順序で取り付ける。

◇◇排気ファン・本体内部の手入れ◇◇

排気ファンの羽根が白くなり、目詰まりしてきたら、排気ファンと本体内部の手入れを行なってください。排気口から排気ファンの羽根が見えます。

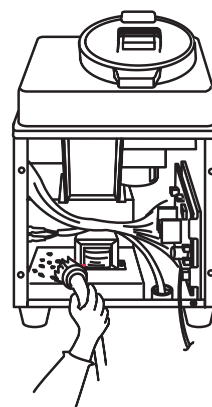
※長期間使用すると、本体内部に白っぽい粉状のものや油汚れが付着することがあります。

1 後板取り付けねじ５本を外し、後板を外す。

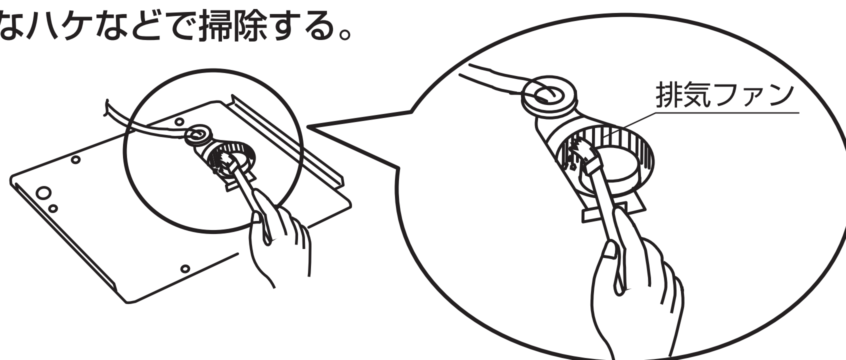


2 本体内部のチャフを掃除機で吸い取る。

- ○電源プラグは確実にコンセントから抜いてください。
- ○掃除機の先端は、金属でないものを使用してください。
- ○リード線やその他の部品に無理な力は、かけないでください。



3 排気ファンを小さなハケなどで掃除する。



排気ファン付近の後板に汚れなどが付着しているとき

○中性洗剤をしみ込ませた布などで、排気ファン付近の汚れをふき取ってください。



4 後板を外したときと逆の順序で取り付ける。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

◇◇こんなときは◇◇

次のような症状が現れたときは、適切な処置を行なってください

症　状	原　因	処　置　方　法
焙煎釜に豆が残っている	焙煎中に停電した	【焙煎】ボタンを押した後、すぐに【豆排出】ボタンを押し、豆を排出する。 6ページ
	焙煎中に電源スイッチを切った	
焙煎状態が深すぎる	生豆投入量が少ない	規定量の生豆を投入する。 5ページ
焙煎状態が浅すぎる	生豆投入量が多い	

※焙煎時、パチパチという音や煙が出ることがありますが、異常ではありません。

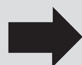
◇◇異常の原因と処置のしかた◇◇

何らかの異常で表のようなエラー表示や症状が現れたときは、適切な処置を行なってください

表示部(エラー表示)	原　因	処　置　方　法
酸味・苦味 浅め・深め 風味 調整 ランプ点滅(緑)	一時停電した、または電源プラグが抜けかかっているため、自動停止した。	電源プラグをコンセントに確実に差し込み、【焙煎】ボタンを押したあと、すぐに【豆排出】ボタンを押し、豆を排出する。 6ページ
酸味・苦味 浅め・深め 風味 調整 ランプ点滅(緑)	規定量以上の生豆の入れ過ぎです。	電源スイッチを切り、【風味】ボタンを押しながら、電源スイッチを入れる。【焙煎】ボタンを押してから、【豆排出ボタン】を押し、豆を排出する。通常の表示に戻ったら規定量の生豆を入れ、再度焙煎してください。 5ページ 6ページ
	点検・修理が必要な故障です。	規定量の生豆を入れても、再度エラー表示が現れたときは、使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 10ページ
上記以外のランプ点滅	点検・修理が必要な故障です。	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。 10ページ

こんなときは修理が必要です

○電源プラグ、電源コードが異常に熱くなる。
○電源コードに傷がついていたり、触れると通電したり、しなかったりする。



お買い上げの販売店にご相談ください。 10ページ

お守りください

処置を行なっても直らないときや、上記以外の症状が現れたときは故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。 10ページ
故障したまま使用を続けると、予想しない事故が発生するおそれがあります。

保証とアフターサービス

◇◇保証について◇◇

●保証書(別添付)

○保証書は、必ず「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
○販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。
○内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間は３カ月間です。但し、次の消耗部品は保証の対象にはなりません。

消耗部品

・触媒セット	・焙煎プレート	・排気ファン
・触媒ヒーター	・カクハンスプリング	・冷却ファン

◇◇補修用性能部品について◇◇

○補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
○本機器の補修用性能部品は、製造打切り後９年保有しています。

◇◇修理を依頼されるときは◇◇

○「故障・異常の見分けかたと処置のしかた」に従ってお調べください。9ページ
○処置を行なっても直らないときは、ご使用を中止し、必ず、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。その際は、右の事項をご連絡ください。

品　　名：コーヒー豆焙煎機
型　　名：本体側面に表示
お買い上げ日：保証書に記載
症　　状：エラー表示など、できるだけ詳しく

●保証期間中

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

●保証期間経過後は

修理すれば使用できるときは、ご要望により有料修理させていただきます。

●修理料金

技術料＋部品代などで構成されています。

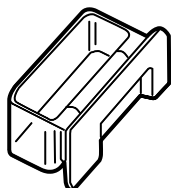
仕　様

型　名	MR-101
外形寸法(高さ×幅×奥行)	375 mm×250 mm×265 mm
質　量	約7.0 kg
コ ー ド 長 さ	2.0 m
定 格 電 圧	A C 100 V
定 格 周 波 数	50/60 Hz
定 格 消 費 電 力	595/595 W
生 豆 投 入 量	120 g
安 全 装 置	停電安全装置
付 属 品	計量カップ

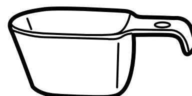
部品のご注文のしかた

次の別売部品は、お買い上げの販売店にご注文ください。その際は、型名・部品名をはっきりとお伝えください。また、インターネットでもご注文ができます。

別 売 部 品



チャフ取りケース
880円
（本体価格 800円）



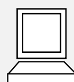
計量カップ
660円
（本体価格 600円）

この価格は、本コーヒー豆焙煎機用です。また、価格は予告なく変更することがあります。
その他の部品についてはお買い上げの販売店にご相談ください。

ご相談窓口（使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談、別売部品の購入など）

お客様ご相談窓口（通話料無料）
TEL 0120-468-110
FAX 0120-468-220
＜受付時間＞
11月～ 1月 9：00～19：00
（土は～17：00、日・祝日・年末年始は休み）
2月～10月 9：00～12：00、13：00～17：00
（土・日・祝日は休み）
※型名（本体側面に表示）をご確認のうえ、ご連絡ください。

インターネットからのお問い合わせ
＜24時間受付＞



インターネット　ダイニチ工業　検索



「お客様サポート」
http://www.dainichi-net.co.jp/support/

ダイニチ工業株式会社におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

1.ダイニチ工業株式会社（以下「弊社」）は、お客様の個人情報をお客様からのご相談への対応や修理及びその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
2.次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
①修理やその確認業務を委託する場合
②法令の定める規定に基づく場合
3.個人情報に関するご相談は、お問い合わせいただきました窓口にご相談ください。

ダイニチ工業株式会社
〒950-1295 新潟市南区北田中780-6
ホームページ http://www.dainichi-net.co.jp/